

トマトフェスタ2008ニュース

第6号

とーくサロン創造農学研究会

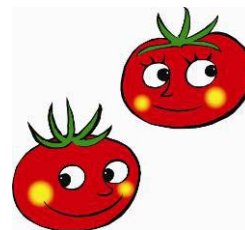
事務局 東京都大田区田園調布本町37-13

080710

山代勤二

トマトフェスタご参加農家、創造農学研究会会員、会友、ご友人のみなさまへ

トマトフェスタ（4年目）は、この夏に東京都大田区において開催すべく準備しております。このニュースは、昨年までに参加した全ての方と、次のトマトフェスタに参加をご検討いただいている皆様へのお知らせです。トマトフェスタニュースは、開催日まで、逐次メール又は郵便でお送りします。



03-3721-8046 (Tel)

03-3721-8082 (Fax)

トマトの力

トマトトークは活気を呼び込む

世界のトマト

「見て、触って、食べて、トマトフェスタ2008」

8月2日（土）

学校法人上野塾・東京高等学校（大田区）で

昔ながらのトマトの勉強会

7月14日、10名で東京高等学校に下調査

7月6日各地からいただいたからカラフルトマトを賞味するプレトマトフェスタを行いました。それを期に実行委員に応募する市民が増えて参りました。地元で永く住み、食品の安全安心問題に関心の高い女性達がその中心です。その中には食や医療介護、教育の専門家やリタイアされたサラリーマンの皆さん、市民運動をしている皆様等です。

7月14日、炎天下の中を東京高等学校に実地調査に行きました。一学期末のテストも終わり、生徒達は夏休みや部活を楽しむムードに突入していますが、学校はこのトマトフェスタを成功させるために特別な体制を敷いており、実行委員会と細かいうち合わせを続けています。地元の実行委員の方は、街頭や店頭でトマトフェスタのポスターを各所に張り出しました。商店街としてにぎわう鶴の木の町では、華やかなトマトのお話はとても似合うのでしょうか、ポスター貼りには10人が10人、非常に好意的であるという報告を受けております。

直前報告

どんなトマトがどの位来るの？（1）

トマトを出品していただく生産者は？

現在、各地の生産者と出荷の協議に入っております。今日まで、判明しているトマトの搬入計画量は、次の通りです。（第一次発表）

なお、トマトの出店をお願いしている方々は、下記の他に、千葉、静岡2、埼玉、福岡、秋田の各県です。

1. 鳥取中央農協（西洋トマト行動隊）



(鳥取県琴浦町のトマト育苗ハウス内光景)

- | | |
|--------------|---------|
| 1. シシリアンルージュ | 20～30kg |
| 2. 花こまち | 20～30kg |
| 3. スイートクラスタ | 20～30kg |
| 4. ゴールデンガール | 20～30kg |
| 5. グリーンゼブラ | 5～10kg |
| 6. クラシカ | 5kg |
| 7. ラローマ | 5kg |

2. アグリネット宝塚（市民自家生産トマト）



- | | | |
|--------------|-------|----------------|
| 1. ブランディワイン | 30 kg | 75個×400g |
| 2. グレート・ホワイト | 30kg | 75個×400g |
| 3. ピッコラカナリア | 10kg | 500個×20g |
| 4. その他二十数種 | 100kg | 大玉、ミディ、ミニ |
| 5. TOMATOっ子 | 40kg | 100セット 詰め合せセット |

3. MEG・NET（消費者ネットと生産者との共同開発）

1. トマトの宝石箱・・・・・・・・・・セット数不明
カラフルトマトのお洒落な詰め合わせ



(トマト提供は遠野ファトリアクラブ)

トマトフェスタの町、鶉の木の商店街は鶉の木祭りムード

7つの商店会と町会組織が網の目のように存在する鶉の木は、東京都でも指折りのまちづくりを住民主導で行ってきた地域です。七夕とお盆の飾りを解いて、7月末には鶉の木祭り（商店街の祭り）が行われ、数十万の人が訪れます。お祭りの期間中、道路を歩けないほど人達で一杯になります。

17日、鶉の木商店街を訪問、町行く人々に笑顔でトマトフェスタを宣伝しました

山代勁二は、地元の実行委員の人に案内されて、自転車で17日、トマトフェスタのチラシとポスターを持って商店街を巡りました。お互いに濃密な人間関係で結ばれている商店会と町会の町ならでは、トマトフェスタのニュースはかなり知られておりました。「当日、楽しみにしているよ」と町ゆく人々ともお話が出来ました。4つの町会長と商店会の連合会長、老人クラブの会長宅では、トマトフェスタの主旨について詳しく説明をし、快く協力をして頂きました。

市民がトマトを育てる（２）

「昔ながらのトマトの勉強会」は先日、地元のテレビ局の取材を受けました。また、あさたま通信という地元のタウン誌（瓦版とっております）の取材を受けました。マスコミの方も美しいトマト達のファッションショウに心を奪われたのでしょうか、取材は入念に行われました。トマトフェスタの本番にも、多くのマスコミが取材に来る予定とお聞きしております。

なぜトマトなの？

取材を受けて、申し上げていることは次のことです。毎日食べるものは、お米と野菜ですが、日本ではそのどちらも生産力が極端に落ちました。それは自給率が40%に満たないことをもって明らかです。ところで、消費者は自分のためにお米を作ることはできません。お米は水田でなければ作れないからです。しかし、野菜は作ることが出来ます。もしかして団地のベランダでも、道路の端でも、誰でもその気になれば生産できます。都会に住んでいる人達は、単なる消費者ではなく、自分も緑を生産する消費者としてやっていくことが出来ますし、その可能性を求めて動いている人も出てきています。

ビックリするようなトマトを作って、市民から農家にボールを投げる

トマトは野菜の王様、誰でも楽しく栽培できます。自分の好きなトマトを自家菜園で作るのも良いことではありませんか？自家菜園で出来なくても、都会はちょっと郊外に出ればそこは元は畑か里山です。都会人は、近郊の人達と手を結んで野菜を生産すればよいのです。トマトはその可能性の高い作物の一つであると思います。

トマトフェスタ実行委員会からのお知らせ

プレトマトフェスタに集まった人達で、トマトフェスタの実行委員会が生まれました。メンバーは7割方を主婦が占めますが、食やみどりの復活を願う元・現の男性の勤め人の参加も目立ちました。更に、健康やエコロジーを標榜する小売店やレストラン、食の専門家、医療・介護、保育の現場を預かる人などの参加もありました。こうした方々を糾合すれば、立派な市場が生まれ、それに即した生産システムも生まれるでしょう。

各地の生産者の皆さまにお願い

トマトフェスタに大量出品してください

当日のご案内（現場マニュアル）は19日中に。

秋までシーズン中、皆様のトマトを買い受けます

——昔ながらのトマトの勉強会

昔ながらのトマトの勉強会では、大田区内の各地で、皆様のトマトの試食会・料理研究会（紹介行事）をトマトフェスタとは別に、6月から10月までの間に断続的に行います。この研究会にはレストラン関係者や業界関係者も参加します。このために、必要なトマトを買わせて頂きたいと思っております。この件は改めて個々にご相談致します。

山代勁二の独り言

・・・ブランドの危機（２）・・・

人間は規模拡大できない

コンピュータが社会の隅々まで活躍する時代では、仕事を効率的にやることはコンピュータの助けをいかに借りるかということになりますが、企業もコンピュータの力によって大規模化しました。しかし、人間の出来ることは限られています。人間は24時間も連続して働けないし、情報をすこしずつしか処理できない動物です。食料も自然の刻む速度に合わさなければ生産できません。食料を大規模に作り、高速で動かし、市場でたくさんシェアを取るという競争社会の行き方は、何処かで人間に大きな無理を強い、傷つけていると思われまます。

生物としての自分を自然のペースと合わせて生きるという生活（スローライフというのでしょうか）に憧れる人達が増えていると思いますが、今現代人が地球から出されている宿題は、人間は規模拡大できないよ、人生には限りがあるよ、錯覚するなよ、お金をいかにたくさん儲けるかということではなく、持続可能な社会をどう作るかを考えなさいということになってきています。

ブランドに甘えて企業が駄目になる時代

ブランドとは言い換えれば信用のこと、だとすれば、信用は人々の価値観や生活哲学によって測定され評価が変動します。企業が悩ましくの求め続けてきたブランドは、人間は心に宿る物欲で生きるものという人間観で支配されているようでもあります。しかし自動車がいかにモデルチェンジしようが、携帯電話がいかに便利になろうが、生命の営みには直接関係しませんが、空気をきれいにする、水をきれいにする、安全な食料を作る等は心に宿る物欲ではなくは生命原理からの基本的要求です。これがブランド維持とどういう関係があるか、企業には理解しづらいことのようにですし、理解していてもどうしたらよいか分からないことのようにです。（従って農業がおかしくなり環境も壊れたとまでは言いませんが）小さなトマトから何を学ぶか、一緒に考えましょう。